



## Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

### 評価報告書

#### インド洋マグロ類委員会 (IOTC)

— 2016 年度 国際資源管理技術協力事業 —  
(終了時評価—2017 年 4 月)

#### 事業概要

機関名	インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)
プロジェクト名	インド洋におけるまぐろ類漁業統計整備促進のための協力プロジェクト (フェーズIVフォローアップ)
実施期間	2016 年 8 月 25 日～2017 年 3 月 31 日
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁： インド洋まぐろ類委員会 (Indian Ocean Tuna Commission 以下「IOTC」という。) 実施機関： IOTC 事務局、インドネシア漁業総局漁業統計担当部署

#### プロジェクト実施の経緯と背景

インド洋まぐろ類委員会(以下「IOTC」という。)は、インド洋における高度回遊性魚類(まぐろ、かつお、かじき類)の管理、保存及び最適利用の促進を目的として、1993 年 11 月の第 105 回 FAO 理事会にて採択されたインド洋まぐろ類委員会設立協定(1996 年 3 月発効)に基づき設立された地域漁業管理機関である。現在の加盟国は日本を含む 31 カ国及び 1 機関(EU)である。

IOTC では、インド洋のまぐろ・かつお類の漁業統計情報システムの整備が課題となっており、公益財団法人海外漁業協力財団(以下「財団」という。)は IOTC の要請に応え、2002 年～2016 年 3 月にかけて、IOTC 関係沿岸国を中心とした漁業統計情報システムの整備に関する技術協力プロジェクトを実施した。2013 年から 2016 年 3 月まで 3 か年計画で実施したフェーズIVの最終年



度の合同委員会で、IOTC 事務局からフェーズVの要請があったが、IOTC メンバー国で最も統計整備支援を必要としているインドネシアでのプロジェクト活動は、フェーズIVで選ばれた水揚げ地でのサンプリング調査を定着させるという一定の成果を収めることができた。

しかしながら、今後の自立発展性を考慮すると現地政府移管後初年度となる 2016 年についてはインドネシア支援に特化した技術支援が必要であるため、IOTC は 2016 年 6 月 16 日付け書簡により、財団に対し、フェーズIVのフォローアップとして、インド洋におけるまぐろ類漁業統計整備促進のためのプロジェクトとして実施してほしい旨、要請した。

財団はこれに応え、IOTC 関係沿岸国のうち、インド洋水域まぐろ類の資源評価をする上で最も重要なインドネシアでの活動を中心に、財団専門家派遣による技術指導及び人材育成を行うことを目的として、本プロジェクトを実施することとした。

**目標・成果・活動内容等**

上位目標	インド洋まぐろ類資源管理措置に必要な統計の整備による関係国の行政・研究の能力が向上する
プロジェクト目標	IOTC 関係沿岸国におけるまぐろ類の漁業統計精度が向上し、人材が育成される
成果	IOTC 関係沿岸国から提出されるまぐろ類漁業統計の精度が向上し、収集された漁業統計が有効利用される
活動	1. インドネシアにおける漁業統計データの収集・処理・提出システムの改善のための技術指導及び支援の提供 2. 上記の活動のために必要な資機材の提供
投入	<p><b>財団側</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>専門家：</b>                  専門家 1 名                  計画：8 月 25 日以降、合計最大 100 日程度                  実績：2016 年 6 月 19 日～6 月 26 日（8 日間）                        2016 年 9 月 22 日～10 月 2 日（11 日間）                        2016 年 10 月 18 日～11 月 11 日（25 日間）                        2016 年 11 月 26 日～12 月 8 日（13 日間）                        2017 年 2 月 7 日～2 月 19 日（13 日間）                        2017 年 3 月 14 日～3 月 23 日（10 日間）                        合計 80 日間（計画対比：80%）</li> <li>・ <b>主な資機材：</b> サンプラー用カップ、長靴等</li> <li>・ <b>事業費：</b> 予算額 19,798 千円</li> </ul>

	実績額 20,502 千円（予算対比：103.6%）
	相手側
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンターパート： <ul style="list-style-type: none"> <li>IOTC 総括責任者 1 名（事務局長（暫定））</li> <li>IOTC 実務担当者 1 名（漁獲統計担当官）</li> </ul> </li> <li>インドネシア <ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシア漁業総局水産資源部長 1 名</li> <li>インドネシア漁業総局水産資源部統計課員 1 名</li> </ul> </li> <li>・プロジェクト関連予算、土地、施設等： <ul style="list-style-type: none"> <li>セーシェル出張時における事務局内執務スペースの提供</li> </ul> </li> </ul>

## 評価事項

### ◆ 妥当性

#### 1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

インド洋における資源評価及び管理措置の促進のためには、管轄水域の資源動向を把握することが必要である。IOTC では、その漁業統計の基本となる漁獲量及び漁獲努力量等の漁業統計システムの構築を進めているところである。本プロジェクトは、IOTC の方針と合致し、IOTC 関係沿岸国から提出される漁業統計の信頼性を高め、IOTC において漁業統計の精度向上を支援するものであることから、プロジェクト実施内容は妥当である。

#### 2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

漁獲量及び漁獲データの精度を高めるため、最重要沿岸漁業国であるインドネシアにおける漁獲統計整備事業の一環として行われている「スマトラ島における漁獲情報収集パイロットプロジェクト（以下「パイロットプロジェクト」という。）を支援した。本プロジェクト活動の成果として、インドネシアから提出されるまぐろ類漁業統計の精度が向上し、収集された漁業統計が有効利用されることから、協力ニーズとの整合性は高い。

#### 3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクト活動は、まぐろ類漁業統計の精度向上を目指すもので、漁業統計の整備が対象分野であることから、周囲の環境に対して新たな負荷を与えるものではない。

#### 4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

まぐろ類漁業管理措置等の検討のために正確な漁獲統計データが必要とされているところであり、本プロジェクトの成果は、インド洋のまぐろ類資源の持続的利用に貢献するものである。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

---

## ◆ 効率性

---

1. 事業費及び実施期間

実施期間は計画どおりであったが、事業費が3%増加した。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

専門家が、IOTC 事務局カウンターパート並びにインドネシア側関係者との調整を図りながら、コンサルタントの投入やワークショップの実施準備を計画的に行ったことにより、本プロジェクト活動は計画どおりにすべて完了した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

インドネシア漁業総局の統計部局による情報収集や統計整備に関する技術水準については、フェーズIV実施に引き続き、フォローアップにおいてもカウンターパートの活動状況、技術レベルを勘案して技術指導内容を決定したことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

インドネシア漁業総局で突然の組織改革が行われ、予定していたワークショップの開催がずれ込んだが、実施計画を見直し、合同委員会を含む、予定されていたすべての活動を年度内に完了することができた。

新旧担当者の引継ぎを支援しつつ、漁業総局によるパイロットプロジェクト継続意思を確認することができた。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

---

## ◆ 有効性

---

1. プロジェクト目標の達成度

1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標： IOTC 関係沿岸国におけるまぐろ類の漁業統計精度が向上し、

## 人材が育成される

フェーズIVにおいて支援をしてきたパイロットプロジェクトをフォローアップすることにより、漁業総局の事業として定着し、「まぐろ類の漁業統計精度が向上し、人材が育成される」という本プロジェクトの目標は達成された。

### 2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

## 2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

### (1) インドネシアにおける漁業統計データの収集・処理・提出システムの改善のための技術指導及び支援の提供

前年度に引き続きパイロットプロジェクトを支援し、サンプリング調査のフォローアップを行った。漁獲量推計ワークショップでは、西部・北部スマトラ州の水揚げ港のサンプラーが約20名集まり、インドネシア側からデータ収集の状況報告が、また、IOTC事務局から漁業総局に対しデータの質の向上のためのアドバイスが行われ、双方で意見交換を行った。

その結果、8か所の水揚げ場でデータ収集が行われ、西部・北部スマトラ州沿岸漁業の漁獲努力量や体長組成データの推計が公表された。

それぞれの活動において、予定どおりデータの公表、報告、統計プログラムの改善の成果が得られた。



【市場の前浜に水揚げされた魚】

### (2) 上記の活動のために必要な資機材の提供

スマトラ島でのサンプリングに必要な資機材を供与し、作業の効率化に貢献した。

## ◆ インパクト

### 1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトにより、州政府と漁業総局が連携し西部・北部スマトラ州における漁業総計データの収集・処理・提出システムが確立されたことから、プロジェクト目標「IOTC関係沿岸国におけるまぐろ類の漁業統計精度が向上し、人材が育成される」は達成された。

IOTC 海域で大きな漁獲量を占めるインドネシアにおけるパイロットプロジェクトが今後も継続されることにより、上位目標である「インド洋まぐろ類資源管理措置に必要な統



計の整備による関係国の行政・研究の能力が向上する」に一定の効果を及ぼす。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

今後、パイロットプロジェクトが順調に継続できれば、スマトラ島内のみならず、他の地域においても持続性の高い漁獲情報収集システムとして応用することができ、国全体の漁獲統計精度向上への効果が見込まれる。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトやプロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

## ◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは IOTC 事務局及びインドネシア漁業総局水産局の職員で、本プロジェクト終了後も引き続き同様の業務を担当する予定である。

供与された資機材は、パイロットプロジェクトの実施に必要なものであり、本プロジェクトの実施を通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、今後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトの実施により、「スマトラ島の水揚げ地でのサンプリングデータをデータベースに入力し、IOTC 事務局が求める形でアウトプットを提出する」というパイロットプロジェクトの実施体制が整備された。

また、本プロジェクトの締めくくりとして実施したワークショップにおいて、インドネシア漁業総局水産資源部長はパイロットプロジェクトの継続を明言しており、この効果は持続的に発揮される見込みである。



【インドネシア・パイロットプロジェクトのサンプリング活動】

3. その他(持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等)

特になし。

以上